

支援機器等教材活用実践事例フォーマット

実践年度・タイトル		令和(元)年度
		体の使い方を意識しよう！
授業について	教科名等	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数/数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作/美術 <input type="checkbox"/> 家庭/技術・家庭 <input checked="" type="checkbox"/> 体育/保健体育 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 外国語/外国語活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 各教科等を合わせた指導 <input type="checkbox"/> その他の教科 <input type="checkbox"/> その他( )
	単元・題材名	マット運動
	授業の目標	・写真や動画を見て、正しい体の使い方や前転などの仕方を理解する。
	学力の3要素	<input checked="" type="checkbox"/> 「知識及び技能」 <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」 <input type="checkbox"/> 「主体的に学習に取り組む態度」
学習集団と子供の実際	学校・学部・学年・人数	<input type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 <input type="checkbox"/> 特別支援学級 <input checked="" type="checkbox"/> 特別支援学校 <input type="checkbox"/> 就学前 <input checked="" type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生以降 <input type="checkbox"/> 特定されない (4・5・6)年 ( 29 )人
	対象の障害	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱 <input type="checkbox"/> 言語障害 <input checked="" type="checkbox"/> 自閉症 <input type="checkbox"/> 情緒障害 <input type="checkbox"/> LD(学習障害) <input type="checkbox"/> ADHD(注意欠陥/多動性障害) <input type="checkbox"/> その他
	子供の困難さ	<input type="checkbox"/> 見ること <input checked="" type="checkbox"/> 聞くこと <input type="checkbox"/> 話すこと <input type="checkbox"/> 読むこと <input type="checkbox"/> 書くこと <input checked="" type="checkbox"/> 動くこと <input type="checkbox"/> コミュニケーションをすること <input type="checkbox"/> 気持ちを表現すること <input type="checkbox"/> 落ち着くこと・集中すること <input type="checkbox"/> 概念(時間、大きさ等)を理解すること <input type="checkbox"/> 学習(計算、推論等)すること <input type="checkbox"/> その他 ・教師の手本を見ても、イメージしながら正しい体の使い方をすることが難しい。 ・言語指示だけでは正しく理解することが難しく、教師が補助しても疲れてくると正しい姿勢を保持したり、安全に前転したりすることができない。
支援機器等教材の活用について	活用の意図	Aコミュニケーション支援( <input type="checkbox"/> A1意思伝達支援 <input type="checkbox"/> A2遠隔コミュニケーション支援) B活動支援( <input checked="" type="checkbox"/> B1情報入手支援 <input type="checkbox"/> B2機器操作支援 <input type="checkbox"/> B3時間支援) C学習支援( <input type="checkbox"/> C1教科学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> C2認知発達支援 <input type="checkbox"/> C3社会生活支援) D実態把握支援( <input type="checkbox"/> D1実態把握支援) ・実際に自分が行った体の動かし方を正しい形・間違った形で写真に撮り、見比べることでイメージと実際の動きの一致を行いたい。
	使用した支援機器等教材の名称と画像	支援機器:iPad アプリケーション:カメラ 写真   
授業展開	授業展開・支援の手立て	マット運動を行い、前転につながるようないろいろな動きを行った。その中で、両腕で体を保持する動きを行った際、お尻が高く上がってしまっていた。教師が補助して正しい姿勢を保持しようとしたが、疲れるとすぐに膝を付いてしまうことが続いた。そのため、教師の手本を写真に撮り、実際に自分の姿勢と見比べることにした。写真を見るだけでなく、マークアップ機能で体の状態について線を引いたことで、手本との違いに気が付くことができた。 前転では、手でマットを押して回転するのではなく、前へ行こうとする体の動きだけで手を付かず首を支点に回ろうとする姿が見られた。首に負担がかかって危険があるため、動画で撮って「どこがどう危険なのか。」ということ静止画にして、確認した。まだ肘折手を着かずに回ろうとすることはあるが、徐々に意識してやるようになった。  
効果・評価	子供の様子や変容および授業の評価	声掛けだけでなくiPadを活用することで、視覚的にも理解しやすく、自分でボディイメージを持ちながらいろいろな動きを行っていた。何が良い姿勢なのか理解できると、頑張って取り組むようになり、上手になった姿を写真に撮って褒められることがさらなる意欲につながった。振り返りでは、即時でなくても写真や動画として残っているため、何を評価されているのか理解しやすかった。△のときには、写真や動画を再度見直すことで、不適切な部分を理解して○でないことを受け入れられることができるようになった。